

C-29 体型の分類について (第2報) B.L, W.L, H.L の水平断面形状の考察  
文化女大家政 三吉満智子 ○土井真知子

目的 被服パターンに利用しやすい体型の分類の方法として、第1報で立体的断りによって直接平面パターンを求める方法と、その水平体型との関連について発表したが、今回は被服と体型をより適確に把握する手段の一つとして、B.L, W.L, H.Lの水平断面形状について偏平率をもとにした分類と、その形状についての考察をおこなう。

方法 被験者は、20才前後の女子30名である。水平断面はスライディングゲージを用いて、頭頂から足部までの間で13部位にわたって採取した。その中から上記3面をとりあげ、偏平率(左右径/前後径)を求めた。偏平率の大きさにより、①20% ②60% ③20%の目安で3分類し、各分類ごとの水平断面の平均値を算出し、図に表わした。平均値の算出は、断面の外郭を長円とみなして2つの中心点を設定し、各中心点から15°おきに放射状の補助線を入れ、その線の断面外郭までの長さによった。さらに、この分類による個人の3部位の組み合わせによってタイプ分類した。

結果 各断面の3分類の結果、偏平率の平均値±0.7が②となり、これより小さいものが① 大きいものが③という分類となった。B.Lにおいては、②が1.28~1.42であり、各分類ごとの平均図は右に示すようなものである。各個人の組み合わせによるタイプ分類では、27通りの組み合わせのうち、出現は15通りであり、最高が20%、2,3,4位の合計が36.6%になり、被服パターンの製作にタイプ別の考慮の必要性が推測される。

